

令和 02 年度 事務事業評価書

新継区分	継続	事務事業名称	020 車輛一括管理運用事務費				
担当部	010000 総務部		課・室	010101 総務課	所属長名	志茂 学	

(1) 基本情報

基本目標		100 その他	施 策	001 その他
事務事業期間		～	会計種別	01 一般会計
経費の性質		4 施設管理事務費	実施計画対象	1:対象
事業概要	実施方法	直接実施	実施根拠 (法令や条例等)	
	目 的	共有で使用する公用車の包括管理		
	対 象	公用車・マイクロバスを利用する職員及びマイクロバスを利用する団体		
	活動内容	・ 公用車の安全管理 ・ 公用車の効率的な配車管理 ・ 必要な公用車の整備充足 ・ 市マイクロバスの使用規則に基づく管理運用		
	意図（成果）	・ 公用車を包括的に管理することで、効率的に利活用できるため、業務を円滑に遂行できる。 ・ 包括的に管理することで、公用車の充足の際のコスト面での削減につなげることができる。 ・ マイクロバスの運転手がいることで、運転手を雇用できない原課においてもバスを利用できる。		

(2) コスト及び成果

		単位	H31年度決算	R02年度予算	R03年度予算	R04年度予算	R05年度予算
事業費		千円	8,235	8,175	8,954	8,967	0
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
	県支出金	千円	0	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	8,235	8,175	8,954	8,967	0

この事務事業の業務量を数値化したもの・・・活動指標				この事務事業の成果を数値化したもの・・・成果指標		
活動指標名	単位	左記の活動指標とした理由		成果指標名	単位	左記の成果指標とした理由
車両整備数	台	共用で使用する車両のため、管理上、一定数の車両確保が必要		車両充足率	%	必要車両の確保が公用車両を管理する上での成果となることから
マイクロバスの予約回数	回	バスの予約回数が活用実績であるため				

活動指標	指標名	単位	区分	H31年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度
	車両整備数	台	計画値	19	21	0	0	0
			実績値	0	31	0	0	0
	マイクロバスの予約回数	回	計画値	0	0	0	0	0
			実績値	0	0	0	0	0
			計画値	0	0	0	0	0
			実績値	0	0	0	0	0

成果指標	指標名	単位	区分	H31年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度
	車両充足率	%	計画値	0	100	0	0	0
			実績値	0	148	0	0	0
			計画値	0	0	0	0	0
			実績値	0	0	0	0	0
			計画値	0	0	0	0	0
			実績値	0	0	0	0	0

妥 当 性	①事務事業を実施する妥当性	☐ 目的は明確で上位の施策に結びついている ☐ 目的は上位の施策に結びついていない ☒ 内部管理経費のため、上位の施策に結びつかない 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 市庁舎外での業務に必要な不可欠な共用車両を一括管理することは、各課の業務負担を軽減し、車両の維持管理等にかかるコストも削減できることから、一括管理が望ましい。 マイクロバスについては、令和2年度はコロナ禍のため運行実績が少ないが、例年多くの事業で活用されている。
	②行政が関与する妥当性	☐ 法令及び条例によりサービスが義務付けられている ☐ 国、県、市の協調によるもの ☐ 民間ではできない、または民間では実施していない ☐ 民間に同様・類似のサービスがあるが、質や量等が不十分なため、補完するもの ☒ 民間に同様・類似のサービスが存在する 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 観光バス業界やレンタカー業界など民間の類似サービスは存在する。 しかし費用負担と日程の確保の観点から、多くの行事を抱える市行政のなかでは、市独自でのバスの所有が望ましい。

必 要 性	③市民ニーズ	☐ 市民のニーズの有無に関わらず実施する必要がある ☒ 市民ニーズが増加傾向にある ☐ 市民ニーズが現状維持の傾向にある ☐ 市民ニーズが減少傾向にある ☐ 市民ニーズを把握していない 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 市民からのニーズは多く、とくに自治会等の地域密着型の事業では利用頻度が上がっている。 また、研修会や研究大会など外部委員の参加の際にも多くの利用がある。 子ども園などからの利用頻度も多く、市所有の間バスであることから、コロナ禍での緊急事態宣言等による頻繁な日程変更等に対応できている。
	④現時点での優先性や緊急性	☐ 緊急事態への対応、最重要施策など最優先して実施する必要がある ☐ 日常的な安全、生活を確保するために実施する必要がある ☒ 公共サービスの平均的水準を確保するために実施する必要がある ☐ 現時点での優先性や緊急性は低いものの、市の将来のために実施した方がよい ☐ 現時点では必ずしも実施しなくてもよい 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 マイクロバスに関しては、民間の類似サービスが存在するため、現時点での優先性や緊急性は低い。 しかし、民間の類似サービスは、市場に左右されるため、観光産業が活発になると市の事業であっても優先されないことから、日程や時間などの変更、業務時間外などへの対応が危惧される。

公 平 性	⑤受益者負担は適切か	☐ 広く市民を対象としていることから適切である ☐ 事務事業の対象が特定されているが、受益者には応分の負担があり適切である ☐ 事務事業の対象が特定されているが、受益者には応分の負担となっていないため、見直しの余地がある ☒ 受益と負担の適正化を求める事業ではない（社会福祉等を目的とする事業など） ☐ 公平性の評価になじまない（内部管理業務など） 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 市役所所有のバスを有料にすることは、法律的に違反する。
-------------	------------	---

効 率 性	⑥事業の成果を低下させずにコスト削減を図っているか否か	☐ かなり削減できている ☐ ある程度削減できている ☐ あまり削減できない ☐ 削減できない ☒ 効率性の評価になじまない 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 古い車両の整備費用が見込めない為、例年予算超過で対応していたが、共有車両の一部をリース化するにあたり、新車であることから予算のの見通しがたち、リース事業であることからコストの平準化もできた。 マイクロバスについては、車両の整備に一定の費用は必要だが、安全に運行するための必要経費であるため、効率性の評価で判断できない。
-------------	-----------------------------	--

有 効 性	⑦成果指標の目標値(予測値)に対する達成度	☒ 目標を上回る ☐ 目標を概ね達成している ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を下回る ☐ 成果指標を設定していない 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 共有する一般公用車両のリース化により台数が増加したことにより、職員の車両確保の負担は軽減している。しかし、コロナ禍であることから適正な台数であるか判断は難しい。 マイクロバスはコロナ禍のため例年にくらべ利用実績が低い。利活用頻度が多くなると、整備等に必要の費用負担も生じていく。今後は、古くなってきたバス車両の更新費用の検討が必要
-------------	-----------------------	---

(4) 評価の総括

所属長所見 1. 妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直す余地あり 2. 必要性 ☒ 適切 ☐ 見直す余地あり 3. 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直す余地あり 4. 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直す余地あり 5. 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直す余地あり	総合評価 ・全て適切でA評価 A 現状どおり事業を進めることが妥当 ・適切3～4でB評価 B 事業内容や事業手法に改善を行う余地あり ・適切1～2でC評価 C 事業縮小または内容や手法に大幅な見直しが必要 ・全て見直しでD評価 D 事業の廃止や休止など、事業のあり方について検討する必要あり A
所属長所見 ☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 改善 ☐ 民間委託 ☐ 統合 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止 ☐ 完了	改革改善案（総合評価でA評価の場合は記載不要）